

一般財団法人石田實記念財団

2024 年度 事業報告書

2024 年度事業報告および決算報告について

2024 年度 事業報告および決算報告
＜自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日＞

2024 年度は引き続きオンライン形式を併用しつつ多くの財団行事を対面形式で開催し、11 月 29 日（金）の石田實記念財団研究奨励賞贈呈式・発表会につきましても皆様のご協力のおかげで TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口の会場にて開催することができ、無事終了することができました。

今年度の石田實記念財団研究奨励賞の応募は 8 件あり、選考の結果、8 件の研究に奨励賞を贈呈しました。研究奨励賞特別賞（石田賞）の受賞者はありませんでした。これにより、1989 年の財団創設時からの助成件数及び賞金金額は、のべ 281 件、154,100,000 円となりました。

ここに、あらためて宮城県および関係企業の皆様、そして財団理事、監事、評議員の方々のお力添え、ご厚情に感謝申し上げます。

2024 年度の事業概要は次のとおりです。

I. 財団行事

1. 2024 年 5 月 24 日（金） ※オンライン形式

第 34 回理事会

- 第 1 号議案 2023 年度事業報告および決算報告について
- 第 2 号議案 2024 年度当財団のスケジュールについて
- 第 3 号議案 役員の改選による候補者の評議員会への推薦について
- 第 4 号議案 役員の新任による候補者の評議員会への推薦について

2. 2024 年 6 月 7 日（金）

第 26 回評議員会（場所：仙台ガーデンパレスホテル）

- 第 1 号議案 2023 年度の事業報告および決算報告について
- 第 2 号議案 2024 年度当財団のスケジュールについて
- 第 3 号議案 役員の改選による候補者の選任について
- 第 4 号議案 役員の辞任ならびに新任による候補者の選任について

3. 2024 年 6 月末～

研究奨励賞推薦依頼開始

4. 2024 年 9 月 20 日（金）

研究奨励賞選考委員会

（場所：東北大学青葉山新キャンパスレアメタル総合棟（RaMGI 棟）2 階会議室）

5. 2024 年 11 月 29 日（金）

研究奨励賞贈呈式・発表会（場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口）

6. 2025 年 3 月 26 日（金）（場所：大沢温泉山水閣会議室）

第 35 回理事会※書面による決議

第 1 号議案 2025 年度事業計画および予算について

第 2 号議案 2025 年度資産の運用について

第 3 号議案 2025 年度財団スケジュールについて

報告事項 常務理事の交代について

報告事項 2024 年度の事業報告及び決算報告（仮）について

その他 2025 年度当財団名簿（案）について

第 27 回評議員会※書面による決議

第 1 号議案 2025 年度事業計画および予算について

第 2 号議案 2025 年度資産の運用について

第 3 号議案 2025 年度財団スケジュールについて

報告事項 常務理事の交代について

報告事項 2024 年度の事業報告及び決算報告（仮）について

その他 2025 年度当財団名簿（案）について

Ⅱ. 試験研究支援事業

先述のとおり、宮城県内の大学、高等専門学校等に対し研究奨励賞候補者の推薦を依頼したところ 8 件の推薦があり、9 月 20 日に開催された研究奨励賞選考委員会での審議の結果、以下＜P.4 資料-1＞の通り 8 件の研究が研究奨励賞として採択されました。なお、石田寛賞は対象者がありませんでした。

2024 年度研究奨励賞受賞研究

超高感度に検出するバイオセンサに向けたナノ構造型光共振器の開発に関する研究	
東北大学大学院工学研究科電子工学専攻	助教 五十嵐アン
AI・ビッグデータ応用を拓くカスタムスーパーコンピューティングに関する研究	
東北大学大学院情報科学研究科情報基礎科学専攻	准教授 Waidyasooriya Hasitha Muthumala
Biofibertronics研究分野創出を目指した多機能ファイバセンサの革新と応用に関する研究	
東北大学大学院医工学研究科	准教授 郭媛元
核医学診断技術を進化させるTlBr半導体ガンマ線イメージング検出器の開発に関する研究	
東北工業大学工学部電気電子工学科	准教授 小野寺敏幸
遠隔コミュニケーションにおける高次な感性心理特性の創出に資する 情報処理過程の解明に関する研究	
東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科	教授 柴田寛
6G/7G周波数帯電磁波の可視化と超高感度検出に関する研究	
石巻専修大学理工学部情報電子工学科	准教授 野竹孝志
環境認識型細胞ネットワークの高効率化による屋内位置推定に関する研究	
仙台高等専門学校総合工学科	准教授 小林秀幸
二次元材料ヘテロ構造の原子スケールイメージングと量子ビットへの応用に関する研究	
仙台高等専門学校総合工学科	助教 角館俊行

Ⅲ. 試験研究設備設置事業

本年度はありませんでした。

IV. 講演会開催事業

2024 年度試験研究支援事業における研究奨励賞贈呈者による研究発表会を、同年度の当財団の主事業と位置付け、次のとおり開催しました。プログラムは＜P.6 資料-2＞をご覧ください。

開催日 2024 年 11 月 29 日（金）

会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口

来賓	東北大学工学研究科長工学部長	伊藤彰則	先生
	東北大学大学院情報科学研究科長	加藤寧	先生
	東北大学大学院医工学研究科長	西條芳文	先生
	石巻専修大学理工学部	中込真二	先生

研究奨励賞贈呈者による発表内容につきましては、上記Ⅱの試験研究支援事業と同じ内容となります。

2024年度 一般財団法人石田實記念財団
研究奨励賞贈呈式ならびに研究発表会プログラム

2024年11月29日（金）於：TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口8階（部屋名：8C）

司会 一般財団法人石田實記念財団 常務理事 米谷 恭児

- | | | |
|---|-------------------------------------|--|
| 1 13:00～13:10 | 【開会の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 理事 澤谷 邦男 | |
| 2 13:10～13:20 | 【来賓のご挨拶】東北大学大学院工学研究科長 伊藤 彰則 先生 | |
| 3 13:20～13:35 | 【2024年度研究奨励賞贈呈式】研究奨励賞・副賞 贈呈 | |
| 13:35～13:40 | 会場準備 | |
| 4 13:40～16:40 | 【2024年度研究奨励賞受賞者による研究発表】（8名） | |
| ① 13:40～14:00
五十嵐 アン 先生 | 東北大学大学院工学研究科
電子工学専攻
助教 | 超高感度に検出するバイオセンサに向けた
ナノ構造型光共振器の開発に関する研究 |
| ② 14:00～14:20
Waidyasooriya
Hasitha
Muthumala 先生 | 東北大学大学院情報科学研究科
情報基礎科学専攻
准教授 | AI・ビッグデータ応用を拓く
カスタムスーパーコンピューティング
に関する研究 |
| ③ 14:20～14:40
郭 媛元 先生 | 東北大学大学院医工学研究科
准教授 | Biofibertronics研究分野創出を目指した
多機能ファイバセンサの革新と応用に関する研究 |
| ④ 14:40～15:00
小野寺 敏幸 先生 | 東北工業大学工学部
電気電子工学科
准教授 | 核医学診断技術を進化させる
TlBr半導体ガンマ線イメージング検出器の開発
に関する研究 |
| 15:00～15:20 | 【休憩】 | |
| ⑤ 15:20～15:40
柴田 寛 先生 | 東北文化学園大学医療福祉学部
リハビリテーション学科
教授 | 遠隔コミュニケーションにおける
高次な感性心理特性の創出に資する
情報処理過程の解明に関する研究 |
| ⑥ 15:40～16:00
野竹 孝志 先生 | 石巻専修大学理工学部
情報電子工学科
准教授 | 6G/7G周波数帯電磁波の可視化と
超高感度検出に関する研究 |
| ⑦ 16:00～16:20
小林 秀幸 先生 | 仙台高等専門学校
総合工学科
准教授 | 環境認識型細胞ネットワークの高効率化による
屋内位置推定に関する研究 |
| ⑧ 16:20～16:40
角館 俊行 先生 | 仙台高等専門学校
総合工学科
助教 | 二次元材料ヘテロ構造の
原子スケールイメージングと量子ビットへの
応用に関する研究 |
| 5 16:40～16:50 | 【選考委員長の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 理事 鈴木 陽一 | |
| 6 16:50～16:55 | 【閉会の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 常務理事 米谷 恭児 | |
| 7 16:55～17:00 | 【記念撮影】理事長、来賓、選考委員長ならびに受賞者の皆様 | |

V. 決算報告

2024 年度の決算報告につきましては以下のとおりです。

① 貸借対照表<P.8 資料-3>

2023 年度比で、運営費用の支払い等のため基本財産の普通預金（三菱 UFJ 信託）が 4,803,638 円減少したものの、投資有価証券（株式）が 15,046,600 円増加となり基本財産は 9,976,387 円増加し、流動資産他と合わせた資産合計（一般正味財産）は 8,906,711 円増加の 214,145,051 円となりました。

② 正味財産増減計算書<P.9 資料-4>

経常収益は基本財産受取配当金の増加等により、前年度比 163,213 円増加の 2,048,310 円となりました。

経常費用は研究奨励賞の贈呈者数の減少等により、前年度比 1,373,657 円減少の 7,921,624 円となりました。

評価損益等は、主に投資有価証券評価益により前年度比 1,665,899 円増加の 14,780,025 円となりました。詳細は「2024 年度投資有価証券評価損益について」<P.10 資料-5>のとおりです。

また、決算報告にかかる外部監査報告書<P.11~12 資料-6>ならびに内部監査報告書<P.13 資料-7、P14 資料-8>を添付いたします。

貸借対照表

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金 1	92,166	120,654	△ 28,488
普通預金（三菱UFJ信託） 2-1	3,596,917	4,440,688	△ 843,771
普通預金（七十七） 3	22,142	212,638	△ 190,496
普通預金（大和ネクスト銀行） 4	7	7	0
仮払金 6	342,414	349,335	△ 6,921
流動資産 合計	4,053,646	5,123,322	△ 1,069,676
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金（三菱UFJ信託） 2-2	0	4,803,638	△ 4,803,638
投資信託口座（楽天・SBI証券） 8-3, 8-4	225,327	225,327	0
投資信託（積立） 10	75,037,987	74,381,681	656,306
投資信託（私募投信） 5-3	10,931,486	10,981,367	△ 49,881
投資有価証券（国債・地方債） 9-1	15,249,000	16,122,000	△ 873,000
投資有価証券（株式） 9-2	108,647,600	93,601,000	15,046,600
基本財産 合計	210,091,400	200,115,013	9,976,387
(2) その他の固定資産			
工具・器具 11	5	5	0
その他の固定資産 合計	5	5	0
固定資産合計	210,091,405	200,115,018	9,976,387
資産合計	214,145,051	205,238,340	8,906,711
II 負債の部			
未払法人税等44	72,000	72,000	0
負債合計	72,000	72,000	0
III 正味財産の部			
一般正味財産	214,073,051	205,166,340	8,906,711
（うち基本財産への充当額）	（ 210,091,400 ）	（ 200,115,013 ）	（ 9,976,387 ）
負債及び正味財産合計	214,145,051	205,238,340	8,906,711

正味財産増減計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	(2,044,061)	(1,885,000)	(159,061)
基本財産受取利息16-1	225,000	225,000	0
基本財産受取配当金16-2	1,819,061	1,660,000	159,061
② 受取寄付金	(0)	(0)	(0)
受取寄付金	0	0	0
③ 雑収益	(4,249)	(97)	(4,152)
受取利息17	4,249	97	4,152
雑収入18	0	0	0
経常収益計	2,048,310	1,885,097	163,213
(2) 経常費用			
① 事業費	(6,049,278)	(7,732,644)	(△ 1,683,366)
・試験研究支援事業費	(4,956,583)	(6,838,262)	(△ 1,881,679)
奨励賞19	4,396,000	6,544,500	△ 2,148,500
役員報酬20	200,000	120,000	80,000
旅費交通費21	184,247	116,260	67,987
会場諸費22	0	0	0
雑費23	176,336	57,502	118,834
・講演会開催及び後援事業費	(1,092,695)	(894,382)	(198,313)
諸謝金24	0	0	0
役員報酬25	160,000	160,000	0
旅費交通費26	165,298	108,017	57,281
会場諸費27	510,133	530,900	△ 20,767
負担金28	0	0	0
雑費29	257,264	95,465	161,799
・産学官交流事業費	(0)	(0)	(0)
寄附金30	0	0	0
雑費31	0	0	0
② 管理費	(1,872,346)	(1,562,637)	(309,709)
役員報酬32	180,000	380,000	△ 200,000
会議費33	383,980	119,750	264,230
旅費交通費34	422,446	157,786	264,660
通信費35	50,585	50,236	349
事務用消耗品費36	4,858	1,706	3,152
広告宣伝費37	286,792	284,302	2,490
雑費38	112,530	73,197	39,333
諸謝金39	0	0	0
支払手数料40	358,717	423,464	△ 64,747
支払利息41	0	0	0
法人税等42	72,000	72,000	0
減価償却費43	0	0	0
租税公課45	438	196	242
経常費用計	7,921,624	9,295,281	△ 1,373,657
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,873,314	△ 7,410,184	1,536,870
基本財産評価損益等9-3、9-4、9-5	14,780,025	13,114,126	1,665,899
評価損益等計	14,780,025	13,114,126	1,665,899
当期経常増減計	8,906,711	5,703,942	3,202,769
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損46	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	8,906,711	5,703,942	3,202,769
一般正味財産期首残高	205,166,340	199,462,398	5,703,942
一般正味財産期末残高	214,073,051	205,166,340	8,906,711
II 正味財産期末残高	214,073,051	205,166,340	8,906,711
	投資有価証券評価益9-3	23,348,082	
	投資有価証券評価損9-4	8,568,057	
	投資有価証券売却益9-5	0	
	評価損益等計	14,780,025	

2024年度 投資有価証券評価損益について

勘定元帳9-3 投資有価証券評価益	金額（円）	勘定元帳9-4 投資有価証券評価損	金額（円）
大井電気株式会社株式 評価益	21,289,800	第144回20年国債（1.5% 満期 2033年3月20日）	873,000
大和ハウス株式 評価益	287,000	富士フィルムHLDGS株式 評価損	472,950
出光興産株式 評価益	33,000	ダイキン工業株式 評価損	892,000
伊藤忠株式 評価益	522,000	村田製作所株式 評価損	466,650
NTTデータ株式 評価益	101,600	トヨタ自動車株式 評価損	470,400
世界経済インデックスファンド(楽天証券) 評価益	1,114,682	三井物産株式 評価損	1,507,000
		住友商事株式 評価損	280,000
		三菱商事株式 評価損	3,097,800
		私募投信「グローバル・フロンティア・ファンド M(一般投資家私募)」 評価損	49,881
		三井・住友・DC年金バランス50(楽天証券) 評価損	315,861
		野村インデックスファンド内外資産バランス（SBI証券）評価損	142,515
合計	23,348,082	合計	8,568,057
評価損益計		14,780,025	

独立監査人の監査報告書

2025 年 5 月 26 日

一般財団法人 石田實記念財団
理 事 会 御 中

柴田公認会計士事務所
宮城県仙台市

公認会計士

柴田 純一



監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 124 条第 2 項第 1 号の規定に基づく監査に準じて、一般財団法人石田實記念財団の 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 2024 年度事業年度の貸借対照表、正味財産増減計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、正味財産増減の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事長は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示のリスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示のリスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの

合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告書

2025年6月5日

一般財団法人石田實記念財団
理事長 根元 義章 殿

一般財団法人石田實記念財団
監事 工藤 栄亮 

監事は、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討しました。

2. 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上

監査報告書

2025年6月4日

一般財団法人石田實記念財団

理事長 根元 義章 殿

一般財団法人石田實記念財団

監事 田村 隆司 印



2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を回り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討しました。

2. 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上